

こぜんないせき 11. 高善庵遺跡

所在地：三方郡美浜町興道寺

調査原因：内容確認

調査期間：令和3年1月31日～3月18日

調査主体：美浜町教育委員会

調査面積：35.6 m²

時代：不明（古代か）



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 美浜町興道寺の小字高善庵では昭和12年(1937)頃に焼きひずんだ古瓦の採集があり、旧弥美小学校西分校の付近に瓦窯の存在が想定されてきました。平成15年度・平成30年度・令和元年度に山裾の一部で部分的な発掘調査を行い、平安時代後期から中世初期、およそ11～12世紀に伴う大規模な土地造成(盛土)の痕跡が確認され、多くの土師器皿などが出土しました。また、それ以前の時代の井戸跡、柱穴列なども検出され、山林寺院などの宗教施設か、あるいは祭祀・宗教行為が行われた場所である可能性が浮上しました。

旧地形は東に向かって緩やかに傾斜しますが、現在は高低差のある2段の平坦面をもつ地形です。さらなる遺跡の広がりを確認するために、それぞれの平坦面を東西に縦断するように調査区を設け、2か所で発掘調査を行いました。高善庵遺跡の第4次調査にあたります。

遺構 1トレンチでは、表土、堆積層下の地山面で地床炉と考えられる土坑1基、小穴1基を検出しました。地山面に掘り込まれた攪乱が多く検出されています。土坑SK040101の平面形態は楕円形で、東西1.08m、南北0.84m、深さ0.2m。埋土には灰や酸化した土壌が混じり、土坑の周縁部は部分的な鉄化が認められるなど鍛冶炉と考えられます。

2トレンチでは、表土、堆積層下の地山面で土取り坑と考えられる土坑1基を検出しました。地山面に掘り込まれた攪乱が検出されています。土坑SK040201の平面形態は崩れた円形で、東西検出長2.1m、南北検出長1.38m、深さ0.72mと大規模で、地山層の粘土を採掘するための土取り坑と考えられます。

遺物 若干の土器片が出土しました。

まとめ 今回の発掘調査では古代に属する鍛冶炉と考えられる土坑1基を確認しました。既往の調査で井戸跡、柱穴列などが確認されていますが、高善庵遺跡の全体像があきらかになりつつあります。

今回の調査でも瓦窯は発見できませんでした。しかし、調査地の南に隣接する旧弥美小学校西分校の背後、西側の山裾で近現代のごみなどととも古代瓦30点ほどが散在する状況や、瓦が混じる盛土が確認されました。付近に損壊を受けた瓦窯あるいは灰原が存在する可能性があります。また、この地点から西に10mほどの山裾でも瓦片数点を採集し、また斜面で須恵器片2点を採集しました。複数の瓦(陶)窯が存在する可能性が高まりました(松葉竜司)。

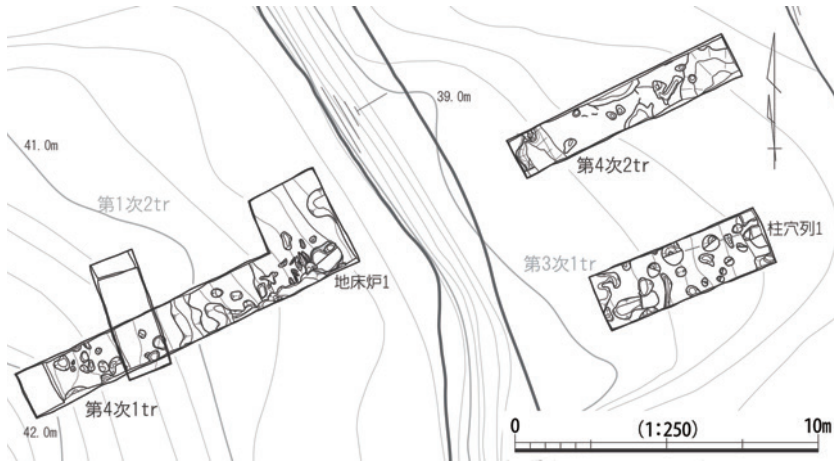


図1 高善庵遺跡第4次調査 平面図

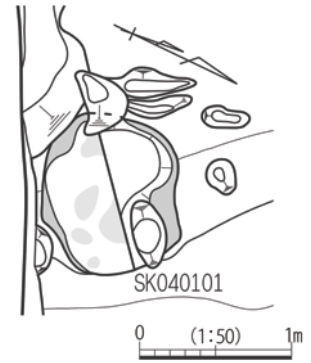


図2 地床炉1 平面図



写真1 第4次調査地近景 (東から撮影)



写真2 1トレンチ (西から撮影)



写真3 1トレンチ土坑 SK040101 (東から撮影)



写真4 2トレンチ (西から撮影)



写真5 2トレンチ土坑 SK040101 (東から撮影)



写真6 瓦散布地近景 (東から撮影)